

8090

第五二號

(決行) 行決 覽 閱 後		帶 課 長 (部) 局		決行指定 		決裁指定 		保存期限 	
長(部)局		長 (部) 局		大 臣 		件 名 <b>近接戦闘器材九一式投擲機銃式制定一件</b>		番 號 <b>參受第九七七號</b>	
				官 次 官 次 務 政 					
長 課		長 課 銃砲課 兵務課 軍事部		長局務主 官副級高 官與參  					
				長課務主 副 主 務  					
				員課務主  					
				房官巨大 課 局 務 主 了結領受 出提領受 號番 昭和 昭和 昭和 年 年 年 八月廿三日 八月廿三日 八月廿三日 八月廿三日 八月廿三日 八月廿三日					

政務官 同付(決行前)

甲 兵 務

(決行後)

陸軍省  
14.8.9  
第 27 號  
銃砲課

陸軍省  
14.8.1  
軍事部

筆記者

陸

陸軍省  
14.8.  
受 27  
兵務

起元願(課名)

陸軍技術本部

陸普第 副官長 陸軍技術本部長 通牒

首題、件七月廿五日附陸技本軍第四四七號上

申、通定マラルハキニ付該兵器國址概説各一六九

部調製差出相成度

陸普第五三三四號 昭和六年八月廿四日

右圖書送付アリタル上左案送付相成度

件名一同右

副官長別紙配賦箇所、通牒

首題、件別紙同面、通制式制定セラレシニ

付該同面並概説配賦目錄、通送付ス

陸普第六三八六號 昭和六年十月五日

附屬品送付済

昭和六年十二月二十四日

5090



陸技本甲第四四七號

別紙添付

九八式

近接戦闘器材九八式投擲機制式制定ノ件上申

昭和十四年七月二十五日

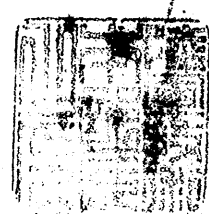
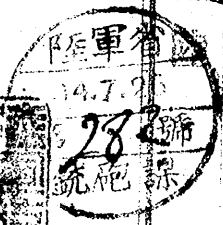
陸軍技術本部長 多田禮

陸軍大臣 板垣征四郎 殿

首題器材ノ制式ヲ別紙圖面ノ通制定相成度關係書類ヲ添へ上申ス

上申書類

九八式投擲機制式兵器目錄	一	葉
制式兵器圖	二	葉
兵器細目名稱表	二	部
概説並ニ審査經過ノ概要	二	部



昭和十四年西東京勸業局

9090

九  
八  
式  
投  
擲  
機

概  
要

査

經

過

ノ

概

要  
説

九八式投擲機 概説  
用途

九八式投擲機ハ投擲爆裂筒、同破壊筒、同發煙筒ヲ投擲スルニ使用ス

構造及機能

九八式投擲機ハ筒、基板、距離變換具及屬品ヨリ成リ全備重量約八四疋ニシテ主要諸元左ノ如シ

筒 徑	五〇耗
筒 長	約六九〇耗
投擲角	四〇度
投擲方向角	左右各一〇度
投擲物重量	一〇疋以下
投擲距離（爆裂筒ノ場合）	九〇乃至四〇〇米
筒 重量	約八疋
基板 重量	約一四疋

- 一、筒ハ筒身、筒底及脚ヨリ成リ基板ノ筒底軸受ニ吻合シテ結合ス
  - 二、基板ハ筒ヲ保持スルモノニシテ之ガ固定ハ止杭ニ依ル
  - 三、距離變換具ハ標尺ノ伸縮ニ依リ投擲物柄桿ノ筒身内挿入長ヲ制限シ拋射藥量トスルヤ  
ハレテ相俟ツテ投擲距離ヲ規正スルモノトス
  - 四、屬品ハ投擲作業竝ニ手入用具トス
  - 五、投擲ハ火藥力ニ依ルモノニシテ小粒藥ニ五瓦入及三五瓦入ノ二種ナル拋射藥包ヲ準備  
シ投擲距離ニ應ジ其ノ一種若クハ兩種ヲ組合セタルモノヲ使用ス
  - 點火ハ筒ノ點火孔ニ裝セル點火「マツチ」ニ依ル直接點火トス
  - 六、本機ノ運搬ハ駄載又ハ車載ニ依ル
- 駄載ニ在リテハ一機ヲ一駄ニ、輜重車ニハ二機ヲ又自動貨車ニハ二〇機ヲ積載シ得

(60) 昭和十三年七月乃至九月時局用トシテ兵器本廠ノ委託ニ依リ七〇〇機ヲ調弁シ送付ス

(61) 昭和十三年九月陸軍工兵學校ニ實用試験ヲ委託ス

其ノ結果實用價值十分ナルヲ以テ制式器材トシテ適當ナルモノト認ムルノ判決ヲ得タリ(別紙委託試験記事抜萃参照)

(62) 昭和十三年八月乃至十一月ノ間中北支ニ於ケル各部隊ニ對シ本機ノ取扱ニ付巡回指導ヲ行フ此ノ間ニ、三改修ノ必要ヲ認メタルト竝ニ前記陸軍工兵學校委託試験ノ結果ニ基ク意見ニ依リ改修ヲ行ヒ昭和十四年一月千葉縣八柱演習場ニ於テ實用試験ヲ實施ス其ノ結果機能共良好ニシテ概ネ所期ノ成果ヲ得タルヲ認ム

以上ニ依リ本機ハ近接戦闘器材トシテ制式制定然ルベキモノト認メ昭和十四年六月審査ヲ終了ス

九八式投擲機審査経過ノ概要

一、審査ノ起因

(一) 昭和四年六月一日陸密第一六〇號技本第二部管掌兵器研究方針ニ基キ昭和七年四月  
研究ニ著手ス

(二) 昭和十二年七月陸機密第九二號技本研究方針ニ基キ審査ヲ續行ス

二、審査ノ経過

(一) 昭和七年八月壓縮空氣ニ依リ物料ヲ投擲スルモノニ付試作シ部内試験ノ結果所望ノ  
性能ヲ得ズ

(二) 昭和七年十二月遠心力ヲ應用セル手動廻轉式ノモノヲ試作シ試験ノ結果重量約一庇  
ノ物料ヲ一二〇乃至一五〇米投擲シ得ルコトヲ認メタルモ本方式ヲ以テ此ノ種ノ性能  
ヲ得ルコト至難ナルヲ以テ之ヲ中止ス

(三) 昭和九年六月更ニ壓縮空氣式ノモノヲ試作試験ノ結果之ヲ改修シ同年十二月更ニ試  
験ヲ實施セルモ其ノ成績良好ナラズ

(四) 昭和十年九月壓縮空氣ヲ以テスル投擲機ノ第二次試製完了シ千葉縣富津射場ニ於テ



實用試験ヲ實施シタル結果實用上投擲距離及速度ヲ一層増大スルノ必要ヲ認ム

(五) 爾後種々調査研究ノ結果簡單ナル裝置ニ依リ重量數駐アル物料ヲ約三〇〇米ノ距離ニ投擲スルタノニハ拋射藥ヲ利用スルニアラザレバ遠ニ適當ナル方法ヲ發見シ得ザルノ結論ニ達シ昭和十三年一月第一部ニ依託シテ拋射藥ヲ用フル投擲機ヲ試製シ同年三月富津射場ニ於テ試験ヲ行フ(第一部)其ノ結果彈道性ニ付キテハ概ネ所期ノ成績ヲ得タルモ機能、抗力ニ付改修ノ必要ヲ認ム

(六) 昭和十三年四月改修完了シ富津射場ニ於テ試験ヲ行フ(第一部)其ノ結果一部改修ヲ要スベキ部分アルモ筒ノ抗力十分ニシテ彈道性モ亦概ネ良好ナルヲ認メタルヲ以テ第一部ヨリ之ガ引繼ヲ受ケ研究ヲ續行ス

(七) 昭和十三年五月發ニ第一部ヨリ引繼ヲ受ケタル投擲機ヲ改修シ千葉縣八柱陸軍演習場ニ於テ實用試験ヲ實施ス其ノ結果一部ノ改修ヲ施セバ工兵近迫戰鬪用器材トシテ其ノ實用價值十分ナルモノト認ム

(八) 昭和十三年六月前三回ノ試験ノ結果ニ基キ新ニ試作ヲ行ヒ千葉縣八柱演習場ニ於テ試験ヲ實施ス其ノ成績概ネ良好ナリ

陸軍工兵學校委託試驗記事抜萃 昭和十四年一月

一、判決

本機ノ構造機能ハ概シテ良好ニシテ實用價值十分ナルヲ以テ制式器材トシテ適當ナルモノト認ム

二、意見及希望

意見 及 希望

當部ノ處置

一、本機ノ構造及取扱共ニ簡單ニシテ運搬亦容易、其ノ性能ハ強烈ナル震憾力ヲ特性トシ併セテ地域的ノ破壊威力ヲ具有シ近接戦ニ於テ工兵ノ敢行スベキ肉薄破壊作業ノ掩護等ニハ不可缺ノ資材ト認ム

二、屬品中止杭ハ二本ヲ増加シ計四本トナシ垂球、鐵線鉄各一箇及木ねら廻若干本ヲ増備スルヲ要ス

意見ノ通増備ス

<p>三、投擲機ノ設置堅牢ナラザルトキハ毎回方向、水準ノ修正ヲ必要トシ返テ爾後ノ投擲速度及投擲精度ヲ阻害スルヲ以テ基板ノ安定用トシテ角材及厚板ヲ携行スルヲ必要トス</p> <p>四、雨天其ノ他筒内ノ防護ヲ願慮シ筒口ニ簡單ナル蓋ヲ取付クルヲ可トス</p>	<p>基板ノ形状ヲ若干改修シ其ノ安定度ヲ増加スルト共ニ所要ニ應ジ投擲箱中板ヲ使用シ得ル如クス</p> <p>蓋ヲ取付ク</p>
--	---

東京助川納

## 參考

支那事變ニ於ケル爆藥投擲機ノ使用ノ實例

一 昭和十三年十月中旬沙窩南方大別山中ニ於ケル戰鬪ニ於テ工兵第十六聯隊之ヲ使用シ多大ノ効果ヲ收ム（第二軍參謀長談）

二 同年同月第十三師團ニ於テ將軍寨高地攻撃ニ使用セシニ期待以上ニ偉大ナル効果ヲ揚ゲ殊ニ突撃部隊トノ協調ニ妙ヲ得逐次陣地ヲ推進シ歩兵之ニ追從シ重疊セル堅固ナル敵陣ヲ奪取シ得タルノミナラズ犠牲者ヲ最小限ニ止メ得タリ（第十三師團兵器部長ヨリ通信）

三 德安附近ノ迂回作戰ニ使用シ效果ヲ現ハス（松浦部隊兵器部長ヨリ通信）

四 第百メ一師團歩兵第四百九聯隊第一大隊ノ二軒家ノ戰鬪ニ於テ二軒家附近ヲ固守セラル側防重火器ヲ速カニ撲滅セザレバ其ノ前進ヲ阻害セラルルノミナラズ其ノ後方ノ渡河連絡ヲ遮斷セラレントスルノ時之ニ協力中ナリシ工兵第百一聯隊第一中隊島海小隊ハ端末作業ヲ以テ敵前五十米ニ近接シ爆藥投擲機ヲ以テ爆藥ヲ投擲シ敵ノ怯ムニ乘ジ之ニ肉薄シテ大爆藥ヲ投入シ歩兵中隊之ニ乘ジ直テニ突入シ完全ニ之ヲ占領シ所期ノ目的ヲ達

セリ

## 教訓

爆薬投擲機ハ工兵自ラ之ヲ使用シ敵ヲ震撼セシメ其ノ好機ニ乗ジ目的物ニ肉迫ス、工兵自ラ之ヲ使用スルハ震撼効果ノ即時利用ノ爲最モ必要トス（工兵近接戦闘兵器ノ戦史的觀察ヨリ）

## 五 西山附近ノ戦闘

西山附近ノ敵陣地ハ山頂ヲ利用シ據點式ニ圓形陣地ヲ形成シ堅固ニ守備セラル、本陣地攻撃ニ於テ十月十五日一〇、三〇頃ヨリ我砲兵ハ約一時間集中射撃ヲ行フモ敵ヨリ一發ノ應射ナク次テ突撃支援射撃ニ引續キ射程延伸セラルルヤ西山一帯ノ高地ニ對スル歩兵ノ突撃開始セラル、カクテ陣地前二三〇米鐵條網ノ線ニ近逼スルヤ突如敵ノ猛烈ナル手榴彈幕ニヨリ一部陣内ニ突入セルモ後方トノ連絡絶タレ且陣内ニ於ケル巧ナル手榴彈ノ配置等ニ依リ突撃成功スルニ至ラズ死傷續出シ戦況一時頓挫スルニ至ル、各隊ハ態勢ヲ整理シ突撃ヲ再興スルニ決シ工兵中隊ハ爆薬投擲機各四機宛ヲ以テ第一線兩大隊ニ協力スカクテ美事本陣地ヲ突破スルヲ得タリ

### 爆薬投擲機ニ對スル判決

取扱簡單容易ニシテ簡單ナル教育ヲ以テ使用ニ堪ヘ且不發少キヲ以テ爆薬ヲ以テスル戦闘ヲ精華トスル工兵的價値ハ甚ダ大ナリ（工兵第十六聯隊ヨリ通報）

六 昭和十三年十月下旬第一〇一師團ノ徳安川渡河ニ於テ渡河作業隊（工兵第一〇一聯隊）

ハ爆薬投擲機ヲ以テ側防火機ノ撲滅及煙幕ノ構成ヲ行ヒ以テ渡河作業ヲ直接援護ス

七 爆薬投擲機ハ各部隊ニ於テ近接戦闘又ハ警備用トシテ賞用セラレアリ部隊自カラ之ニ

類スル投擲機ヲ整備使用セルモノアリ（久村中將中北支出張報告）

八 爆薬投擲機ハ準備セル（四〇〇）約半數ハ戰場ニ到着シ有効ニ使用セラレタリ（中支

派遣軍兵器部兵器業務詳報）

爆薬投擲機ニ依リ投擲スベキ爆裂罐ニ對スル意見

- 一 一發ニテ爆薬量三班六〇〇ヲ消耗スルハ爆薬携行量ニ制限アル現況ニ於テハ過大ナラズヤ尙少量ニテ目的ヲ達スルコトヲ得ザルヤ（榮壽少佐巡回指導團各部隊ノ意見）
- 二 爆薬ハ更ニ小量ナルモノヲモ投擲シ得ル如ク研究スルノ要アルモノト認ム（久村中將中北支出張報告）
- 三 敵ヲ震駭セシムルニ止ルヲ以テ殺傷効力ヲ收ムルコト等ニ關シ研究ヲ要ス（昭和十三年十二月近接戰闘研究演習ノ結果ニ依ル判決）
- 四 爆裂罐ハ肉厚ヲ大ニシ多少破片効果ヲ有セシムルヲ要ス（陸軍工兵學校委託試驗ノ結果ニ基ク所見）





6190



陸技本甲第六四七號

近接戦闘器材九八式投擲機圖面竝ニ概説送付ノ件通牒

昭和十四年十月四日

陸軍技術本部副官 筒井三郎

陸軍省副官 川原直一 殿

本年八月二十四日附陸普第五三三四號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝ニ概説(圖面二十三枚)概説一枚)各百六拾九通送付ス  
追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上機械課へ直送可致ニ付承知セラレ度



陸軍

東京 助川 納